

<評価の基準> A. 十分達成されている B. 達成されている C. 取組んだが成果が十分でない
D. 取組みが不十分である

1 保育理念・保育計画		評価
①	施設の保育理念・保育方針など理解している。また、建学の精神にあるキリスト教の理念を理解し、共感している	B
②	保育方針を基に全体的な計画が作られている。	B
③	保育理念や保育方針を定期的に確認している。	B
④	乳児の発達を理解し保育計画を作成している。	B
⑤	保育計画は子どもの実態にあわせて自由に変更できるような順応性のあるものになっている。	B
⑥	自分の保育の内容や保育計画の評価・反省をおこない次に活かせるようにしている。	B
<p>・保育理念や年間計画を見直し、子どもの様子に合わせ月案週案を作成した。日誌を通して毎日振り返りを行うことで今後の保育に活かせるよう努めた。</p> <p>・乳幼児期は人格形成の土台であることを常に意識し、ひとりひとりの子どもの可能性を伸ばせる保育を心掛けた。</p> <p>・まずは心の安定を重視していった。</p>		
2 乳児への対応		評価
①	登園時には子どもの様子をよく観察して、体調が悪くないかどうかを確認している	A
②	事故やけがが発生した際は適切な処置対応ができる体制が整っている。	A
③	一人ひとりの子どもをよく観察すると同時に、周囲にも目を配るようにしている	A
④	年齢や発達、個性や性格、特徴を踏まえ、また家庭環境、生育歴等を考慮した関わり方をしている	B
⑤	職員間で共通意識を持ち一人ひとりに応じた対応をしている。	B
<p>・ひとりひとり丁寧に関わる事を心掛けたが、仮園舎移動前後は自分たちも環境を整える事がなかなか難しく、整えるまでに時間を要した。今も模索中である。</p> <p>・看護師からの適切な対応の仕方を学ぶ機会が増えた。</p>		
3 環境・安全・食育		評価
①	一人ひとりが安心して過ごせる環境作りをしている。	B
②	乳児の発達や生活を見通して、安全で清潔感のある環境構成をしている	B
③	季節を意識し素材・用具など適切に活用している。	B
④	職員が健康・安全に対する認識を共有している。	B
⑤	地震・火災・不審者対応など緊急時に対応できる訓練を行い、乳児の安全を守る体制作りに取り組んでいる。	B
⑥	食育の重要性を理解し季節や年齢に合わせて食育計画を立てている。	B
⑦	栄養士・保育士が連携し食育を進めている。	C
<p>・仮園舎となり落ち着いた環境づくりに時間を要している。</p> <p>・不審者対応についてもう少し具体的な対応策を考え敏感でありたい。</p> <p>・調理師栄養士と連携し一人ひとりにあった食事を提供できるよう調整しているが、仮園舎となり、施設が離れ、連携し辛い面があり課題が残る。</p>		

4 保護者への対応・支援		評価
①	保護者に対して保育内容・子どもの様子がわかるように発信している。	B
②	保護者の状況・個人情報の漏洩に注意している。	A
③	保護者からのクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に報告・連絡・相談をしている	B
④	保護者の子育てを支え、喜びに共感するように心掛けている。	A
<p>・その日にあった子どものエピソードを伝えたり、傾聴も心掛けた。</p> <p>・今年1月土曜参観会と懇談会を行い、保護者の悩みや思いを聞いたり、園側の保育内容、職員の思いを伝え、互いに理解を深める良い機会となった。</p> <p>・園内の風通しを良くすることを心掛けた。</p> <p>・仮園舎となり、安全面の対策をどのように行っているかも聞いてもらう機会となった。</p> <p>・危険と思われる事や場面を気づいたときに記録するようにした。</p>		
5 地域の自然や社会とのかかわり		評価
①	地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている	B
②	地域の自然や公共施設などの環境を保育に活用している	B
③	地域の小学校の行事や公開事業に関心をもっている	C
④	施設の子育て支援について内容を理解し取り組んでいる。	B
<p>・散歩を通して近隣の家との挨拶を交わし交流した。</p> <p>・小学校とは、なかなか連携し辛い面もあるが散歩のルートで通過してみる等交流を図っていききたい。</p> <p>・一時預かりを行い、子育て支援を少しずつ行っていくつある。</p>		
6 研修と研究		評価
①	研修は年計画に沿って実施している。	B
②	園内外の研修会や研究会は自己課題をもって参加している。	B
③	研修で学んだことを報告し合いお互いに学び合う機会を持っている。	B
④	施設や乳児の実態から課題を見つけ自主的に研究に繋げることができる。	B
<p>・オンライン研修等の参加が多かったが、子どもの発達を考えたり、改めて知識を得る良い機会となった。</p> <p>・今年度は不適切な保育について話し合うことが多く、保育の原点に戻り、子どもを尊重することを改めて意識した。</p> <p>・日々のミーティングを利用して研修で得た知識を職員で周知するようにしている。</p>		

静岡聖母幼稚園小規模保育いちご組の保育の質の向上を図るために自己評価を実施致しました。評価結果を公表し、評価の結果を踏まえ 今後もより良い保育を提供できるよう努力していきます。

令和 5年 3月 15日

静岡聖母幼稚園 小規模保育事業

いちご組 園長 木林薫子



令和4年度の教育活動等に対する学校評価書

学校法人静岡聖母学園 静岡聖母幼稚園
 園長 木林薫子
 静岡聖母 静岡聖母幼稚園 学校関係者評価委員会
 委員長 柳澤桃子

1 幼稚園の教育目標

神に愛されていることを感じ、心豊かで逞しい子、思いやりのある子
 重点目標:神の愛を感じ、分かち合いが出来、意欲を持って物事に向かいよく考えて行動出来る子どもの育成
 一、教師や友だちとの出会いから、自分の存在に気付く事によって他人の気持ちが分かり、一緒に出来るようになる。
 一、親や他人に依存している状態から、自立して自分で考えて行動出来るようになる。
 一、衝動的、断片的な行動の傾向から、次第に思考力、判断力を持った行動がとれるようになる。

2 本年度の重点課題(学校評価の具体的な目標や計画)

- ・キリスト教精神を教育の土台とし、安心できる環境のもと、園生活を送り、他者への愛や尊敬の心を育て、互いに認め合い自尊感情や意欲等の非認知能力及びコミュニケーション能力を育む。
- ・新教育要領により、遊びを中心とした子どもの主体性を伸ばす教育を目指す。
- ・新しい生活様式の習得を目指し、生活習慣や健康、衛生に関する知識を身につける。
- ・日々の教育活動の中でそれぞれの思いや気づきを大切に、協同性を育て、豊かな感性と表現を育む。

3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価

評価項目	自己評価(令和 5年 2月28日)		学校関係者評価(令和 5年 3月 1日)	
	評価点	幼稚園の取組・反省と改善策	評価点	評価・意見
教育内容	1	理念・方針	A	
	2	園の課題	A	
	3	行事の精選	A	
	4	園児指導	B	
	5	免許・資格	B	
	6	職員の課題	A	
	7	研修の企画	C	研修報告の機会が少なく反省が残る
	8	環境設定	C	仮園舎となり安全に子どもが過ごせる環境を模索中
子育て支援	9	未就園児	B	
	10	在園児	A	
	11	児相等の連携	A	
	12	預かり保育内容	A	
	13	預かり保育体制	B	
安全管理	14	施設と設備	C	園舎建て替え中の為整備中
	15	防犯体制	C	防犯カメラ2台追加設置、仮園舎フェンス、錠前の設置をした。
	16	安全衛生管理	A	
	17	アレルギー対応	A	
	18	防災対策	A	

評価項目	自己評価(令和4年2月21日)		学校関係者評価(令和4年3月3日)	
	評価点	幼稚園の取組・反省と改善策	評価点	評価・意見
人事管理	19	労働条件明示	A	
	20	時間外勤務	C	引越し等で残業電が増えたが代休を取った。有休消化がギリギリラインなので改善したい
	21	就業規則	A	
	22	労働者名簿	A	
	23	自己評価	A	
財務管理	24	予算作成	B	
	25	決算の分析	B	
	26	情報開示	A	
	27	個人情報保護	A	
	28	経理規程	A	

※自己評価、学校関係者評価とも1～28の各評価で特筆すべき点がある場合、またはC、Dの評価点の場合はコメントを記入のこと。

評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

4 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
教育内容	コロナ禍でオンラインだった研修も対面で行えるものも増えた。葵小学校との幼小架け橋プログラム作成も試みた。葵小のどんど焼きに参加し、地域で大切にされている行事や伝統に触れる機会を増やしていきたい。指針にある「遊びから始まる主体的で対話的で深い学び」の実現に向け職員で話し合い、試行中である。保育のドキュメンテーション実施により、より開かれた保育を目指している変革期である。
子育て支援	未就園児遊びの会も限定で予約制ではあったが合計6回計72組の参加があった。コロナ禍で孤立した環境にある親子が多い事を感じた。次年度は、より開かれたものになり、いつでも相談しやすい環境、そして専門的な技術が出来るような機会をふやしていきたい。ホームページが途中停止してしまい、SNS等では発信したが2月末に復旧した。園舎建て替えイベントでは父母の会の力添えによりSNSでイベントの様子が観れることになり、反響も大きかった。
安全管理	仮園舎となり公共施設の使用も増え、改めて地域との安全の大切さを感じた。又、それが防犯対策にも繋がることを切に感じた。近隣の交番、県警、自治会、近隣の施設との日頃からの連携を今後も強化していきたい。
人事管理	園内研修がなかなか進まないながらも日々のミーティングを必ず行い職員間の連携を図った。保育ドキュメンテーションをコドモンアプリで発信するように心掛けた。葵小との職員交流も互いに質の向上になり、継続して行っていきたい。

5 自己評価、学校関係者評価の公表

- 公表期間 令和 5年 3月 10日 ～ 令和 4年 4月 9日
- 公表方法 学内掲示板、ホームページ掲示による

記入日 令和 4年 3月 10日

記入者 園長 木林薫子

